

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立上杉山通小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	4	3	3	3	21	27
児童数	80	97	108	123	116	114	3	641	

研究の概要

1. 研究主題

楽しく学び、確かな学力を身に付けるための授業づくり
 ～算数科における学び合いと個に応じた指導の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数
 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「楽しく学び、確かな学力を身に付けるための授業づくり」 ～算数科における学び合いと個に応じた指導の工夫を通して～</p> <p>研究の見通し 算数科における楽しく学び、確かな学力を身に付けるための「学び合い」と「個に応じた指導」の在り方を次の4つの視点から研究していく。 「分かる・できる・考える」指導の工夫 個に応じ、集団を生かした学習形態の工夫 児童の意欲を高め、指導に生かせる評価の工夫 学ぶ喜びを支える家庭や中学校との連携</p> <p>研究の内容・方法 研究目標を実現するため、学校の目指す授業像を研究内容の柱とし、研究の4つの視点を踏まえて授業像に迫る手だてを研究内容として設定し、学級・学年の授業実践や研究三部会の実践を通して、計画的に取り組んでいく。</p> <p>(1) 基礎・基本を身につけ、分かる楽しさ・できる喜びを児童一人一人に味わわせ、個人の伸びを実感できる授業 新しい単元の学習のために必要な既習事項を基礎・基本として生かしていく授業 作業的・体験的・具体的な算数的活動を取り入れ、数量や図形に対する感覚を豊かにする授業 単元の基礎・基本を意識し、その意味を理解させ、技能を確実に定着させていく授業 個に応じてTTや少人数指導、習熟度別学習を計画的に取り入れた目的のある授業</p> <p>(2) 自分や友達のを考えを生かし、学び合う楽しさを味わい、互いのよさを認め合う授業 既習事項を基にしながら自分で工夫して問題を解決したり、新しい考えや処理の仕方を生み出したりできる授業 数量や図形について本質的に理解し、計算の仕方などを進んで考え、自分の言葉や図を使って表現し、伝え合う授業 子どもの意見が多様に出て、お互いに学び合いのできる授業</p>
--------	---

(一斉授業・少人数指導)
算数のおもしろさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活に生かそうとする態度を育てる授業

(3) 楽しく学び，確かな学力を身に付ける授業づくりを支える校内研究組織と実践活動

学習部会
A基本的学習習慣の形成～ノート，発表等
B習熟の時間の計画作成～スキルタイム等
C指導計画の作成と修正

評価部会
A評価規準・評価基準の作成と検証・修正
B評価方法の計画～自己評価，個人カルテ等

調査部会
A学力検査の実施と分析（4月・2月）
B児童の意識調査の実施と分析（7月・2月）
C保護者の意識調査の実施と分析（9月）

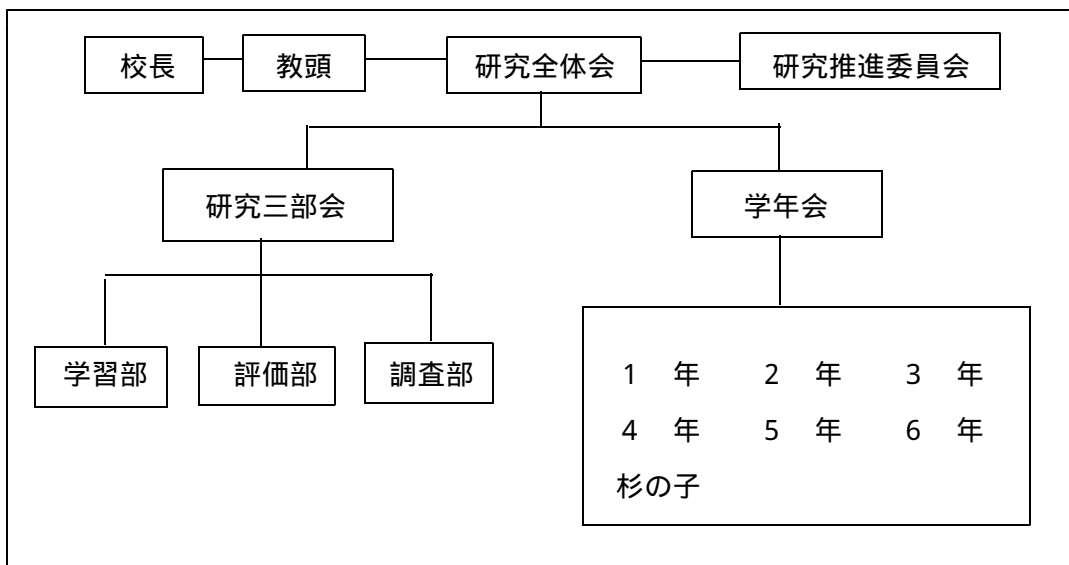
平成16年度

テーマ
「楽しく学び，確かな学力を身に付けるための授業づくり」
～算数科における学び合いと個に応じた指導の工夫を通して～

研究の見通し
・楽しく学び，確かな学力を付けるための算数科の授業はどうあればよいか。基礎基本を確実に身につける個に応じた指導を充実させ，友達との学び合いを通して，数学的な考え方のよさに気づき課題を解決する授業をめざして，計画的に実践していく。

研究の内容・方法
・算数科における，楽しく学び，確かな学力をつけるための「学び合い」と「個に応じた指導」のあり方を前年度の研究の成果と課題をもとに次の5つの視点から重点化して推進していく。
児童一人一人の確かな学力を高めるための習熟度別学習等の個に応じた指導の段階的導入
楽しい算数の授業をめざした算数的活動や学び合いの授業，課題解決学習の計画的導入
児童が学習に意欲的に取り組むための学習環境の整備や学習の基本的な生活習慣の形成
教材や単元のねらいに応じた学習形態の適切な計画と指導に生かす評価の工夫
継続的に実施可能な小中連携の学力づくり（相互乗り入れ授業・合同の教材研究・個人カルテの引継ぎ）

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 学習指導の工夫

児童の生活と結びついた問題，児童が興味を持つ身近な話題を選ぶことにより，抵抗感を少なくしたり，興味を持たせたりして取り組ませることができた。内容や数値など吟味して作成した問題は，蓄積して活用するシステムにしたい。思考を助ける教具の使用により，問題の構造がつかみやすくなり，自力解決にも役立った。念頭操作へのステップにも役立った。（おはじき，ブロック，タイル，数直線）

教具の工夫により効果的な学習ができた。提示の場面，生かし方には工夫がいる。（10ボックス，さし絵に替わるもの）

自力解決のために，既習事項を使って考えることを大事にした。

学び合いをするためには自分の考えをもつことが大事だととらえた。ノートに考えを書くことの体験を積み重ねてきた。

(2) 学習形態の工夫

問題解決的な学習の進め方を基本にすることで，児童一人一人に課題意識を持たせて授業に取り組ませることができた。互いの多様な考えを聞き合いながら自力で考える態度が育ってきた。

考えを発表する経験を積み重ねることで，友達の考えを自分の考えと比べながらよく聞くようになり，互いの考えのよさをみつけることができるようになった。TT指導は，個に応じたきめ細かな指導体制の展開ができた。

少人数指導では，考えを発表し，それらを取り上げることが有効であった。

(3) 評価の工夫

振り返りカードは児童のつまづきを見るなど，教師が指導の見直しをすることにも役立った。コメントを記入することで意欲を高めることにつながっている。系統的な指導を展開する上でも見直しを持って指導する上でも，評価カードは役立つ。

2. 今後の課題

(1) 学習指導の工夫

ノートの活用について，考えを書く，文章題においても筆算が必要な場合には，計算のミスをしないうえに，スペースを取って確実に計算をするなどの共通理解を図る。

例えば「10のまとまり」「1あたり量×いくつ分」など，数領域の基礎基本にあたることは，充分時間をかけて指導にあたりたい。そのためには，単元の系統図・指導計画・評価計画などが指導上必要になる。

基本から発展へ，発展的な問題も含め段階を踏んだ問題を用意し，児童の実態に応じた支援のもとで取り組ませて基礎基本の定着を図る。

教材研究を深め，学習材や課題とする場面設定，補助的・発展的教材作成などにあたる。

黒板へのカードの貼付など，多くの児童に自分の考えを発表させる機会を設定する。それは，自力解決と発表がどの児童にも意味ある活動であると実感させることになるからである。「自力解決～発表～課題解決」「習熟」など，本時のねらいに沿って十分に時間を確保するために指導時数を考えるなど，指導計画を工夫することが必要。

練り上げ，討論，学び合いについて共通認識を持ちたい。学び合いを通して数学的な考え方を養いたい。

本時のねらいにせまる話し合いを体験させたい。

意見を述べたり，聞いたりすることは，算数に限らず，日常生活，教科学習においても大事にしていかなければいけないことである。このことを普段から念頭に置いて習慣化を図りたい。話し合うためには，分かりやすく伝える話し方について，取り立てて指導することも必要。

学習が机上の知識に終わらないで，生活の中で見つけたり操作したり，家庭の話題になる方向にもっていきたい。教具の操作だけでなく算数的活動に対しての取り組み方に共通認識が必要。

(2) 学習形態の工夫

TTでの授業でも児童の考えをすべて見取ることが難しい。

グループ編成には、レディネステストや児童の希望、その他学び合いの側面から、様々な配慮をして自分の考えを出しやすい環境を整える。よりきめ細かい指導をするには、クラス3分割するくらい的人数が理想。少人数指導でも理解に時間を要する児童など、様々なレベル（学習のペース）の児童がいて、個別に対応が必要な児童に対する時間内の指導支援が難しい。

(3) 評価の工夫

振り返りカードをきちんと書かせるには時間も必要であるから、簡潔でありながら児童自身が自分の学習状況を見つめられるものにするには、学習の流れと学習の観点をつけるなども含め、どんな形式がよいのか考えたい。低学年では、自己評価をする際に個人差が生じているが、目標となる観点を示し、児童自らが評価する力をつける意味からも自己評価を行わせたい。その扱いをポートフォリオ的なものにするなどで、その場その場の評価で終わらない、次に生かせる評価になるのではないかと。単元を通してどの児童も見落とすことなく評価できるチェックリストやの作成と、つまずきを発見して支援するなどの活用を図る。カルテについても同様。多面的な評価をするために、多様な評価方法と評価の場を工夫する。そのために評価項目と評価規準の作成と、指導者側の有効な活用が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力テストの実施（CDT、4月、2月）
- ・児童の児童の意識調査の実施と分析（7月）
- ・保護者の意識調査の実施と分析（9月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・仙台市学力向上推進協議会
- ・仙台市内フロンティア校への研究授業の案内と実施（12月）
- ・上杉山中学校との合同の研修会の実施（8月、10月）
- ・上杉山中学校との合同の研究授業の実施（6月、9月、12月）
- ・WEBページでの取り組みの紹介（作成中、3月公開予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 □ 13～18学級 ■ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 □ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無